

外部の方々との意見交換会

千葉大学環境報告書 2011 の作成に当たって、2011 年 7 月 4 日に千葉大学西千葉キャンパスに 4 人の方にお集まりいただき、千葉大学の取り組みと本環境報告書の原案について、忌憚のないご意見をいただきました。みなさまからいただいたご意見をもとに、物質収支や達成度のページと本文との対照関係、環境関連科目の基準、光熱水量のキャンパスごとの解析などを追加・修正させていただきました。貴重なご意見をいただき感謝いたします。

公立大学法人高崎経済大学
経済・経営研究科教授

水口 剛 氏



大学を動かすことや、学生に参加してもらうことがいかに大変なことか、よくわかりますので、学生主体でこれだけのことをしている千葉大学の取り組みには、敬意を表します。

今年度の環境報告書もたいへん読みやすく、よく書けていると思います。ただ、環境関連科目の掲載については、どう解釈すべきか、迷いました。大学の本来における取り組みという趣旨はわかるのですが、いろいろな授業があるのはある意味で当たり前のようにも思えるからです。特に環境問題の解決に貢献するような科目が選ばれているのかもしれませんが、その場合の掲載基準を明確に示しておくといいのではないでしょうか。

また、マテリアルバランスの数値が本文の用紙の購入量や光熱水量のページとつながっていることや、目的目標と達成度一覧が本文の記述とどうつながっているのかなども、わかるように工夫するといと思います。

光熱水量の変化の中には、環境マネジメントの成果を反映していない面もあると思います。たとえば、猛暑になればエネルギー消費は増えますし、冷夏なら減ります。そこで、同じ気温のときの使用量を比較するなど、努力による部分とそうでない部分を分けることができれば、よりよいと思います。

千葉大学には、大学の環境マネジメントのモデルとして一層発展してもらいたいと思います。ちょうど、タンポポの種がいろいろな所に飛んで行って花を咲かせるように、いろんな大学にも広められるといいですね。

千葉県環境生活部環境政策課
温暖化対策推進室主幹

森 美則 氏

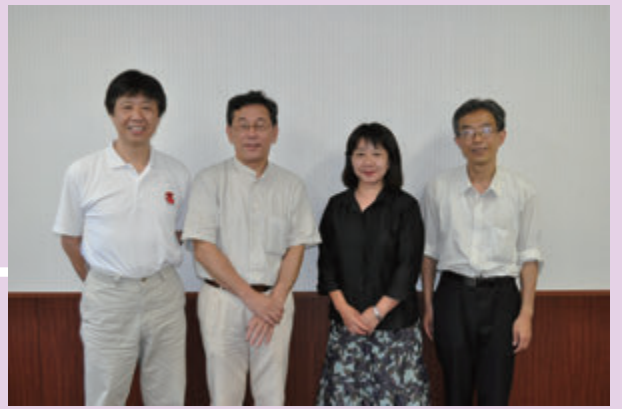


千葉大学の環境マネジメントシステムは、学校だけではなく地域社会に開かれた取り組みを進めていることが良い点です。また、良い事柄だけではなく悪い事柄も発信していることが評価できます。

内容も、常に改善させつつ行っています。たとえば、今年度は、「標準化教室」について、経済産業省、日本規格協会とも連携をとりながら、学生が主体的に進めていました。環境マネジメントの根本を大事にしながら、新しいことを進めている点も千葉大学らしい所だと感じました。

報告書は、高校生にも解りやすくという視点で書かれたということですが、所々にインタビュー・コラムが入っているので、読むのがいやになるという感覚はありませんでした。細かな点ですが、3章のエコキャンパスの取り組みで、光熱水量がいちばん問題になっているのですが、そのデータだけキャンパスごとの解析が行われていません。問題点としてとらえているのであればキャンパスごとに細かく解析してもいいのではないのでしょうか。また、目標と達成度の一覧について、主な取り組みが書かれていますが、何%減という結果も同じ列に書かれていますので、「主な取り組みとその結果」としておくと網羅できると思います。

トピックスにあるような日本環境経営大賞最優秀賞受賞といったものはどんどんPRして、他の大学にも広げて行って欲しいです。この取り組みは、次世代の育成という非常に重要な取り組みです。環境部門で仕事をしている立場から、そのような取り組みを経験した学生が社会人になるのは頼もしく思います。



GONET

(ごみゼロネットちば21) 代表

井上 健治 氏



一つの市町村に近い人口が千葉大学のキャンパスにあります。しかし、ここまでの環境対策をやっていく市町村は少ないと思います。それぞれ活動の内容が濃いと感じました。ただ、数年たって、頭打ちになっている項目もあり、千葉大学らしさをもっと出してその改善に取り組んで欲しいと思います。若い人には豊かなアイデアがあります。そのアイデアを生かして、頭打ちを避けつつ取り組みを進めていただきたいと思います。

環境報告書は、読み終わるのに大変だとは思いませんでした。読んでいて楽しいです。とくにアンケート結果に興味深く拝見しました。その中で、自主的に環境活動を行っていますかという質問への回答が低くなっています。環境活動をサークルとかグループだと思っている学生が多いのではないのでしょうか。個人でやれる活動は沢山あります。私の経験からも、活動に参加しませんかという「入りませぬ」と断られますが、自宅でやっていることを教えてという沢山反応が出てきます。一般の学生を参加させるためにこのような工夫が参考になるのではないのでしょうか。

千葉大学での環境マネジメントのノウハウは市町村に売れると思います。関連するNPOがない市町村から引き合いがくるのではないのでしょうか。また、学生のフィールドでもまだまだやれる取り組みがたくさん埋もれています。たとえば、行徳では、フレンドシップ号というプロジェクトがあり、放置自転車を小学生が塗装して、市役所、病院などをつなぐシェアサイクルとして利用しています。地域住民と連携しつつ、これからもさまざまな取り組みを進めていただくことを期待します。

千葉大学附属中学校

P T A 副会長

金地 佳恵 氏



千葉大学は、総合大学の良さを十分生かして環境マネジメントシステムを運用されてきました。環境問題に教職員、大学生、構内事業者、附属学校園等が一体となり、取り組んでいる様子がわかりました。千葉大学での環境の取り組みは、近隣の住民にも伝わっています。千葉駅近くの千葉公園をきれいな公園に生まれ変わらせた市民ボランティアと行政の方達の間でも、千葉大学で作られた堆肥の「けやきの子」が話題になっていました。

留学生のコラムに、「日本人はごみを正しく捨てることを子どものころから身につけさせられているから、町がきれいだ。」とありました。このように、小さい頃からの教育が重要だと思います。この点で、附属学校園での環境教育の取り組みに大学生が関わっていることが、次の世代の人材の育成にも繋がっていて、評価できると思います。

環境報告書は、一市民として、読むのが大変という印象がありましたが、開いて読み始めたら、思いのほか解りやすく、興味を持って読み進める事ができました。

千葉大学ならではの取り組みとして、今後、千葉大学の中にどのような動物や植物が生息しているのかを取り上げて欲しいと思いました。私はキャンパスの中を自然観察のためによく歩くのですが、ヨモギを食草とするチョウのヒメアカタテハをはじめ、さまざまな生物がこの西千葉キャンパスに生息しています。大気汚染に弱く環境の指標生物になる「ウメノキゴケ科」も見られます。理学部、薬学部、園芸学部などがある千葉大学ならではの専門性を結集して、今後の環境報告書で取り上げて頂けたら良いと思いました。